

2016年2月3日

株式会社IHI

2016年3月期 第3四半期決算説明会における主な質疑応答の要旨

1. 営業利益通期見通しの前回公表比増減要因について、報告セグメントにおける工事採算の変動▲280億円の内訳は？

・ 以下の通り。

① 資源・エネルギー・環境：▲190億円。

- ・ 大半がボイラの溶接部位不適合によるものであり、第2四半期で損失計上した内容とは異なる事象。
- ・ 第3四半期までの実績▲150億円に加え、将来悪化するリスクも計上している。

② 社会基盤・海洋：▲90億円。

- ・ 内訳は、海洋構造物 ▲80億円とイズミット横断橋 ▲10億円。

2. 決算発表毎に業績が下振れている現状から脱却できるのはいつか？

・ F-LNG・海洋鉄構事業については、工事の進捗がそれぞれ進んできており、更なる損失が発生する可能性は減少してきている。

① ドリルシップ

- ・ 契約納期は2016年11月末であり、リキダメについてはさらに1か月の猶予が認められている。工事が進捗し、先行きを見通すことが可能になってきたので、工事完成までの追加費用を計上した。

② FPSO

- ・ 愛知工場の工事量を下げて確実に手持ち工事を遂行できる体制を検討し、それによって追加費用が発生するリスクを見通しに反映させた。引き渡し時期についてはお客さまと協議中も、年内の引渡しを想定。

③ SPB タンク

- ・ 同様の工事が連続する際には改善効果が表れるのが通常だが、今回はその効果を保守的に見通した。

・ イズミット湾横断橋の架設工事については、2016年春頃に交通開放の予定である。今年は現地で雪が多い事情はあるが、これ以上の損失が発生することは無いと見ている。

・ ボイラの溶接部位不適合の補修対象となる4工事に適用される補修方法は、経年劣化を補修する際にも採用している、実績がある方法なので、合理的な費用見積もりを行ったと考えている。

3. 今回の業績予想修正の大きな要因はものづくり力の低下であると説明があったが、その背景は？

・ ものづくりはIHIの根幹であり、今回のように溶接材料を間違えるというような事象が生じたことは非常に残念であり、考えられない事象である。

・ 厳密に原因を調査した結果、品質管理システムの正しさは検証できたものの、その背景の技術伝承などの点で問題があると思われるため、さらに対策を検討していきたい。

- ・ 製品を製造する過程では人による部分が多いため、正しく確立した品質管理手法を正しく運用させることが重要である。その点が欠如していたと分析している。
4. 今回の件を受けて、経営責任の取り方として社長自らの進退は？
 - ・ 今回の事象はものづくりの根幹に関わるものであり、ものづくり技術力をしっかりと立て直すことが自身の使命であると考えている。
 5. 今期3度目の下方修正であり、この間に新しい中期経営方針を発表している。このことは市場に対して誤ったメッセージを発信したことになるのではないか？
 - ・ 今回の下方修正で新たに損失を織り込んだボイラの溶接部位不適合については、様々な溶接箇所・複数の工事を対象に膨大な調査を要した。事態が広範囲にわたり、かつ、深刻であるということが判明したのが2015年12月である。
 - ・ 新しい中期経営方針について、その以前から長期間にわたり議論しており、その段階ではそのような結果は判明しておらず、本件を反映することはできなかった。
 - ・ ただし、第2四半期までに判明していた海洋構造物事業の業績下振れに対しては、プロジェクト遂行体制の強化を新しい中期経営方針の中に盛り込んだ。
 6. 今回の業績予想修正の原因と2007年の下方修正の原因はボイラ事業で共通している。この点についてどのように考えているのか？
 - ・ 現地工事が原因となった2007年の業績下方修正と工場での製作が原因となった今回とは事象が異なっている。今回の事象はものづくりを根幹とする企業としては非常に恥ずかしい事象であり、ものづくり力の再構築が大きな課題である。
 7. ボイラの溶接不適合が発生した時期のチレゴン工場では、どの程度の人員が増加していたのか？また、それらの増加した人員に対して教育が不十分になってしまった背景は？
 - ・ 通常は120名程度の溶接士が、ピーク時には最大200名程度まで増員された。
 - ・ 相生工場から溶接分野におけるベテランの人員を派遣して溶接指導を行っていたが、今回の事象では、急増した溶接士に対して十分な指導および管理が十分ではなかったと分析している。
 8. ボイラの溶接不適合の原因について、現場と営業、事務と技術などのコミュニケーションの問題が大きいのではないか？エンジニアリングと現場の乖離の問題があるのではないか？
 - ・ 溶接工程は、外から見ただけでは品質が分からない特殊工程プロセスである。今回の事象は、この特殊工程プロセスの管理がうまくできていなかったことが原因であり、今回の事象はものづくり力の問題であると分析している。
 9. ボイラの補修方法はお客さまと合意済みの方法なのか？
 - ・ お客さまと概ね合意しており、設計指示と異なる溶接材料の使用部分を正しい溶接材料で補修する。この方法は、経年劣化の補修方法と同様であり、信頼性の高い確立した方法である。
 10. FPSOの最終組み立てを発注する企業はどこなのか？また、その契約の形態は？更なる追加費用発

生の可能性は？

- ・ 愛知と海外で現在建造中のブロックを第三国の建造ヤードに運び、艀装することになった。近日中に正式契約予定であり、その契約形態はコストプラスフィーの契約になるだろう。
- ・ 第三国での艀装量が多くなると、それに見合う形で愛知工場での艀装に要する費用が減少するので、第三国で最終組み立てをすることによって費用が発生したとしてもオフセットされる。責任分担範囲を見て精査する必要があるが、想定される悪化リスクはすでに見通しに織り込んでいる。

11. 現在建設中のコーブポイント天然ガス液化設備に関して、リスクとして想定すべき点は？

- ・ 現状は比較的順調に工事が進捗している。これから据付工事が本格化するが、EPCでは据付工事の終盤にリスクが顕在化する傾向がある。この点については、見積もり段階で一定のコンテingenシーを計上しており、計上した範囲内にリスクが収まるのかどうかについては今後注視する必要があるものの、完成時期は2017年末なので、現状で判断できる段階にない。

12. 2017年3月期に損失を持ち越すような事象は？2017年3月期は通常の利益を計上できるのか？

- ・ 現時点で想定しうる悪化要素は全て今回の業績予想に織り込んだので、来期に損失を持ち越すものは無いという前提である。また、現時点において下振れの可能性を調査している案件は存在しない。
- ・ 来年度の業績予想については現在実施中の利益計画の編成過程で慎重に見極めたい。

以上